

健康・生活



がんになっても いきいきと!



いきいき和歌山がんサポート理事長 谷野裕一

58 歯周炎に注意を

良い季節ですね。

週末はリレーフォーライフでした。リレーフォーライフは米国で始まりました。医師ががん患者の遺族の協力で、がん研究をするために寄付を集めたのが始まりで、米国では毎年400億円を集めています。これから日本でもどんどん広がればと思います。

さて、きょうは歯周炎のお話です。乳がんとは歯周炎なんて関係ないよと思えますよね。でも、ごく関係あるんです。それは最後に。

歯周炎とはどんな病気でしょうか？まず、歯周ポケットをご存じですか？歯は顎骨(がごつ)という顎の骨に刺さ

っています。歯の根はこの周囲を歯肉が取り巻いていますよね。その歯肉と歯の間が歯周ポケットです。通常は3ミリくらいですが、炎症を起すと深くなります。歯周ポケットに歯垢(しご)が付いて石みたいになり、テトラポットにフジツボが付くみたいな感じになります。その部分にばい菌が付くと歯周炎を起して、さらに悪化すると歯槽膿漏といって、歯の根っこが刺さっている歯槽から膿が出てくる状態になります。

歯の根っこにはばい菌がたまった状態が続くと歯がぐらぐらになり、CMでやっているトマトの上にある歯が乗っかっているような感じで、そのうち歯が抜けてしまいます。そこまでいかななくても歯周炎があると、抗がん剤を使っていると白血球が少なくなったりすると歯茎が腫れて熱が出ます。

歯周炎のもう一つの問題は、骨粗しょう

症の一部の薬が使えなくなることで、骨を溶かす破骨細胞と骨を作る骨芽細胞がバランスを保って骨が保たれています。しかし、女性が閉経して女性ホルモンが少なくなったたり、女性ホルモンを抑える乳がんのホルモン治療などのときは、破骨細胞が活発になり骨が溶け出し

てしまいます。それを止めるには、ビスフォスフォネートやデノスマブを使いますが、歯周

炎が強いと顎骨壊死になってしまつてことがあります。この二つの薬は骨転移にも使いますが、使つ前に歯周炎を治しておかないと、顎骨壊死になるとご飯が食べられなくなつてしまいます。だから乳がん治療に歯周炎は大

事なチェックポイントなんです。先日、私も歯垢のクリーニングをしてきました。3、4カ月に1度行って、歯周ポケットを清潔

にしておく歯周炎が起らなくなります。もちろん歯磨きも大切です。大切なのは普段からの予防ですね。

【連絡先】NPO

法人いきいき和歌山がんサポート(メール ikiki@jintory.or.jp)、紀陽銀行 湊支店普通預金585222